

# 原爆投下から79年— 平和を願いともに祈る



8月9日(金)夕方、長崎大司教区は教区主催の「平和祈願祭」を開催した。新型コロナウイルスによる影響で、2020年と21年は浦上小教区主催、22年は長崎中地区主催としてミサを行い、昨年23年は教区主催として予定されていたが、台風の影響に伴い中止となった。原爆投下から79年の今年、「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)をテーマに5年ぶりにミサとたいまつ行列が行われ、平和を願い、皆で共に祈った。

## 5年ぶり教区主催のミサと行列

平和を実現する人々は幸いである  
その人たちは神の子と呼ばれる

マタイ5・9

ミサは、中村倫明大司教の主司式のもと、米田サンタフェ大司教、ジョン・ウエスター大司教、韓国チエジュ教区カン・ウイル大司教、満司教(広島)、森山信三司教(大分)、高見三明大司教、駐日教皇大使の代理としてファブリス・リヴェ参事官、30人余の司祭団の共同司式により、国内外の巡礼者を含め総勢約600人が集ってささげられた。

中村大司教はミサの説教の中で、「誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」(マタイ5・39)という朗読箇所のみことばを引き、ユーモアを交えて左頬に大きな絆創膏を貼った姿で語り始めた。「イエス様がおっしゃりたいのは、ただ単に『叩かれた時にはこうしなさい』ということではなく、『どんなに叩かれたとしても』『どれほど侮辱されたとしても、それでも』ということ。しかも、その侮辱を『黙って我慢しなさい』ということでもありません。徹底的に侮辱されたとしても、さらにもう一つ(の頬)を向けなさいとおっしゃるのです」

大司教は、相手の要求以上のものを差し出す行為は、我慢や忍耐だけではできず、愛すること、ゆるすこと、ゆるすこと、ゆるすこと、同時に、愛すること、ゆるすことの難しさにも触れた。また、被爆79年を迎え、「あの時、人々の顔だけではなく、体も、家も町も、そして命も、核兵器はすべてを奪いました」と話し、教皇フラン



シスコが2019年来崎された時の言葉「声を上げよう」に倣い、「私たちも今、声を出せるのだったら、声を出していきましょう」と語った。そして、「もう一度申します。核兵器が1発でも使われてしまえば、もう一方の頬を向けることさえできなくなり、核兵器はすべてを奪います。核兵器は絶対になくすべきです。声を上げていきましょう。片方の頬を打たれる前から、もっと積極的にこちらからまず、対話し愛するための手を差し出していくこと、仲直りやゆるしの手を差し出していくこと、他人を受け入れていく温かい手を差し出していくことにも心がけてまいりましょう」と結んだ。

ミサ後、20時に出発したたいまつ行列では、被爆マリア像を先頭に、たいまつやペンライト(400本と200本を準備)を手にした信者らが、浦上教会から平和公園までの道のりをロザリオの祈りを唱えながら歩いた。公園到着後、聖書朗読に続いて、ウエスター大司教が、核兵器のない世界の実現を目指してメッセージを述べた(下段の記事)。その後、黙とうをささげ、学生や青年たちを中心に、聖ヨハネ・パウロ2世教皇と教皇フランシスコの言葉が朗読され、平和を祈った。



カトリック長崎大司教区  
広報委員会  
〒852-8113  
長崎市上野町10-34  
カトリックセンター内  
Tel. 095-843-3869  
Fax 095-843-3417  
振替口座 01880-5-2699  
発行人 山田良秋  
印刷所 インテックス  
株式会社 インテックス

祈りの意向  
祈りの使徒

- ・教皇
- ・日本

私たちが、地球の叫び、環境災害や気候変動の犠牲者の叫びに心の耳を傾け、世界を大切に生きる生き方へと導かれるように、すべての高齢者が生きる喜びを味わいながら、これまでの豊かな経験を分かち合うことができよう。

## 2024年8月9日 平和公園でのメッセージ 核兵器のない世界を実現するため 耳を傾け、祈り、そして行動すること

米国サンタフェ大司教  
ジョン・C・ウエスター大司教



1945年の広島・長崎への原爆投下から79年目を迎え、今日皆さまと共にいることをとりわけ光栄に思います。私と同僚であるジェイ・コグラン氏は政治的な目的や下心のために日本にきたわけではありません。私たちは、広島と長崎で起こったことを悲しみ、皆さまと共にある、人類同胞家族の一員として来たのです。私たちは、核兵器のない世界、世界の恒久平和への道を共に切り開くことを願っています。

T・S・エリオットは、『四つの重奏曲』の中で、「死者は、生きているときに言葉を持たなかったことを、死んでから話すことができる。死者は、生者の言葉を超越した、炎の舌で話す」と言っています。今日、生者と死者は、私たちに何を語りかけているのでしょうか？ 原爆が再び使用されることのないように、再び保有されることのないように、再び考え出されることのないように、そのために全力を尽くせよ。

原爆は、ただ死を目的とした醜悪な発明です。そして、死はこれまでも、これからも、神の計画の中にありません。私たちの創造主、愛に満ちた神は、いのちを存分に与えるいのちの神です。そして、死から生へ、利己から無我へ、罪から恵みへ、闇から光へと立ち返らなければならぬのは人間の方なのです。

私たちは、今日ここで聞いた声を行動に移すことを約束します。そして、神さまが私たちの努力を祝福してくださるように祈ります。1945年8月に亡くなった方々の言葉は、私たちの心と魂に響き渡り、核兵器のない世界を実現するための揺るぎない決意に私たちを駆り立てます。

私たちは今日、祈るためにここにいます。日本の被爆者の方々の声、米国のダウンウインダー(風下住民)の方々の声に。皆、原子爆弾の使用と開発の影響を被った人々たちです。そして、1945年に悲惨な苦しみ味わい、苦しみながら亡くなった人々の声に。彼らのささやきは、まだ私たちに聞こえています。

私たちは今日、祈るためにここにいます。世界が神の恵みの光に原爆の光を凌駕する光ーを見ることができ、祈ります。私たちが共に心を神にささげて祈ります。暴力、戦争、そして核兵器の存在そのものに終止符が打たれますように。核兵器の保有さえも倫理に反するという教皇フランシスコの大胆な主張を、人々が真剣に受け止めますように。また、世界の指導者たちが、軍拡競争緩和の呼びかけに応えますように。特に人工知能と極超音速兵器の出現を考えると、現在進行中の軍拡競争は以前の軍拡競争よりもはるかに危険です。

私たちは今日、行動するためにここにいます。私たちが提唱する検証可能な多国間核軍縮のための非常に重要な行動の第一歩は、世界の指導者たちに対して、核兵器禁止条約に署名し、核軍縮と最終的な核兵器廃絶へ向けて確実に前進するように、世界の市民が懇願し、要求することです。

この条約には93の国が署名していますが、署名した核保有国は一つもありません。これは不名誉なことであり、核兵器を保有する国の指導者たちが、核抑止が機能しているといまだに信じていることの明らかな表れです。これまで抑止力が機能してきたと見えるのは、単に運が良かったからであり、これは安心をもたらず戦略ではありません。意図的であれ偶発的であり、核による大惨事を避ける唯一の確実な方法は、あまりにも長い間、世界の幸福を脅かしてきた核の脅威を世界から取り除くことです。

耳を傾け、祈り、そして行動すること。それが、今日ここで皆さまと共にいる私たちの意向です。コグラン氏と私は、この大切な集いに私たちが参加することを許してください。ご厚意に感謝いたします。

私たちは、今日ここで聞いた声を行動に移すことを約束します。そして、神さまが私たちの努力を祝福してくださるように祈ります。1945年8月に亡くなった方々の言葉は、私たちの心と魂に響き渡り、核兵器のない世界を実現するための揺るぎない決意に私たちを駆り立てます。

2020年  
「被爆75年から  
5年間のチャレンジ」  
<https://nuclear-free.net/>  
核なき世界基金



助祭実習の時に、主任神父様のカリスマに一目惚れした。きつとイエス様が最後の晩餐の時にお使いになった聖杯は、このような単純な形をしたものだろうと思っていたからだ。しかし、そのような形をしたカリスマを手に入れることができず、ずっと心の中で沈みかけていた。ただ、病気で長崎に戻って来られた。もう1人ではミサを捧げることができないようにならなっていた。ある日、さり気なく神父様へ、あのカリスマのありかを探してみた。部屋はどこかにあるだろうが、今はどこにおいであるのか分らないという答えが返ってきた。覚悟を決めたのだ。神父様、そのカリスマを僕に下さいませんか。そのカリスマでミサを捧げる時には、必ず神父様のことを思い起こしますから。神父様が、僕のような申し出をどのように受け取られたのか、分からない。しかし、神父様は何でもないように、そのカリスマを渡してくださいました。長く使われてきたあの輝きは消えかけていた。神父様が亡くなった。修理先をやつと見つけ、カリスマを修理に出した。カリスマは、輝きを取り戻し、戻ってきた。人は、忘却の存在だ。神父様が亡くなったことで、記憶の奥底に埋もれていた神父様との日々が思い起こされた。どれだけ親切にされ、支えられたのか、思い出したのだ。(衡)

# 長崎で平和フォーラム

この8月、韓国からパックス・クリステイ・コリア(以下、PCKと表記)のメンバー約20人が来崎し、8月10日(土)お告げの MARIA 修道会本部を会場に「長崎カトリック平和フォーラム」を開催した。

パックス・クリステイは「非暴力によつてのみ、より平和な世界を築くことができる」という基本的なメッセージを掲げている(「パックス・クリステイ・インターナショナル事務局長の言葉」 国際



会場には、PCKの共同代表であるカン・ウイ、ル名誉司教(韓国チェジュ教区)とアンセルモ・リー氏をはじめとするメンバー約20人と、ジョン・ウエスター大司教(米国サンタフェ大司教区)、白浜満司教(広島)、中村倫明大司教(長崎)、講演者や参加者、協力者ら合わせて約40人が集まった。

はじめに中村大司教から歓迎のあいさつがあり、パックス・クリステイ・インターナショナル関係者とPCK顧問からそれぞれ祝辞が送られ、文書や録画などで紹



続いて3つのセッションがあり、それぞれ、「新たな課題と機会、アジアとその先の平和と核軍縮」「平和と2027年ソウル・ワールドユースデー(WYD)のための青年の役割」「アジアと世界における平和と核軍縮のためのカトリック教会とパックス・クリステイの取り組み」をテーマに、講演や発表、意見交換などが行われた。最後に、このフォーラム開催の成果として「長崎平和アピール」がまとめられた。

## 声をそろえ「平和を！」

佐世保で聖母平和祈願祭

8月15日(木)聖母被昇天の祭りにあたり、佐世保では「聖母平和祈願祭」がアルカスSASEBOを会場に開催された。今年のテーマは「平和を！」。

ミサに先立ち、参加者全員で世界平和のためのロザリオを唱え、また、ゆるしの秘跡の時間もあった。続いて、永井徳三郎氏(長崎市永井隆記念館館長)による講演会「永井



隆博士からのメッセージが行われ、その後、中村倫明大司教司式による平和祈願ミサがささげられた。大司教はミサの説教の中で、韓国如己の会の活動を紹介し、「特に若い世代が互いにゆるし、ゆるされることを通して平和が訪れる」と語った。また、参加者の「平和の祈りや願い」が書かれたしおりが奉納された。

大司教はミサの終わりに、参加者全員で「平和を！」と声をそろえて唱えるよう呼びかけ、約400人の参加者たちを祝福し、祈願祭を結んだ。

器のない世界のためのパートナーシップ」について語り、「どうぞ韓国の方々や皆さんも加勢してください」と呼びかけた。

\*核兵器のない世界のためのパートナーシップ(PWNW)：2023年8月、アメリカと日本の4つの教区(サンタフェ、シアトル、長崎、広島)が、原爆投下から80年となる2025年8月までに「核兵器のない世界」の実現に向け進展があることを切望し、話し合いを経て設立。今年8月5日に、このPWNWへの加盟(入会)の呼びかけを世界のカトリック教会の諸団体に向けて開始した。(詳細はQRコード参照)

7月10日(水)大司教館で、教区シノドス公式提言を推進するため、今年度2回目のシノドスコアチーム会議が行われた。シノドスコアチームは、司教総代理、教区本部事務局長を中心に、2人の教区シノドス担当司教、長崎教区11の委員会の委員長で構成されている。

会議の中では、各委員長から活動報告と今後の予定について説明があった後、他の委員会からの質問に答えたり、提案を受けたりした。

シノドス担当司教からは、実際に地区や小教区で行われている具体的な取り組みの事例が紹介された。例えば長崎南地区では毎月ミニ黙想会が行われていることや、ある小教区では週のお知らせに要理教育の一問一答を載せていること、聖書の勉強会が始まっ



## お便り

### 長崎コレジオについて

長崎コレジオ院長 野濱達也

長崎コレジオは、卒業以上の司祭志願者が、自分の召命を見極め、福音を宣べ伝えるために必要な養成を受けて、司祭職を直接準備する大修士学校での養成に備える場として設立されました。1998年に大浦で始まったコレジオの養成ですが、2013年には福岡コレジオが開校され、その使命、役割は委ねられ、院長の野濱神父、協力学生が生活しています(福岡在住の山下神学生には、定期的に長崎コレジオに来てもらっています。賄いスタッフがい



ないという当面の課題を抱えています。抱えてはいますが、皆で協力し合い、日々を過ごしております。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」(ヨハネ15:16)

長崎コレジオはこのことを掲げて歩んでまいります。司祭召命の招きに一人でも多く応え、ますようにお祈りください。



左上の写真は、中町教会と同じ敷地にあるお告げの MARIA 修道会中町修道院跡。現在は長崎コレジオとして使用されている。▼上の写真は、長崎コレジオでの働きの他、中町教会で奉仕する野濱達也師(田の写真)とアウグスチン・トゥ師(同)。コレジオ生も手伝い、教会共同体との交わりの中で生活している。

## ふたつ園

▼福者カミロ・コンスタンツオ殉教祭 9月15日(日)14時、焼罪史跡公園(平戸市田平町)。雨天時、田平教会。

▼聖トマス西と十五殉教者祭 9月29日(日)14時、中町教会。

▼シノドス第16回通常総会・第2会期 10月2日(水)〜27日(日)、パチカン。

## 教区シノドスコアチーム 会議と新委員長の任命

7月10日(水)大司教館で、教区シノドス公式提言を推進するため、今年度2回目のシノドスコアチーム会議が行われた。シノドスコアチームは、司教総代理、教区本部事務局長を中心に、2人の教区シノドス担当司教、長崎教区11の委員会の委員長で構成されている。

会議の中では、各委員長から活動報告と今後の予定について説明があった後、他の委員会からの質問に答えたり、提案を受けたりした。

シノドス担当司教からは、実際に地区や小教区で行われている具体的な取り組みの事例が紹介された。例えば長崎南地区では毎月ミニ黙想会が行われていることや、ある小教区では週のお知らせに要理教育の一問一答を載せていること、聖書の勉強会が始まっ

たことなど。このような小さなアイデアや事例をリストにして情報を共有する「シノドスバイキング」を周知していくことを確認した。

さらにシノドス担当の岡秋美師からは、今年3月7日から8日にかけて東京・日本カトリック会館で開催された「日本のシノドスのつどい」についての報告があり、「霊における会話」という分かち合いの方法が紹介された。

その他、来年の聖年や被爆80年に向けて、各委員会が何をできるのかを、引き続き検討することとなった。

11の委員会がある長崎大司教区諸活動部門が2024年度から第8期を迎え、7月17日付で委員長が任命された。新委員長は下記の通り。任期は27年3月31日まで。

### 〈長崎大司教区諸活動部門 第8期 委員長〉

委員会名	委員長名	任期
信仰教育	中島 誠志 師	2024年7月17日付 〜 2027年3月31日
青少年	川端 志範 師	
生涯養成	山添 克明 師	
平和推進	鍋内 正志 師	
人権	川口 昭人 師	
福祉	宮原 大地 師(新)	
エキュメニズム・諸宗教	竹谷 誠 師	
家庭	福島 光明 師(新)	
召命	辻原 達也 師	
典礼	平本 義和 師	
広報	山田 良秋 師	

世界平和へ祈りを…

## 明治石材

長崎本店 長崎市城栄町13-1  
大村店 大村市赤佐古町287番地  
HP <http://meijisekizai.shopinfo.jp>

業務内容  
お墓建立  
納骨堂販売  
お墓のリフォーム  
霊名彫刻

電話 (095)846-3598  
電話 (0957)50-3008

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

## たつみ産業株式会社

## 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 剛  
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地  
TEL (0956) 31-8268

内科・循環器科

## 医療法人 平田クリニック

院長 ヨゼフ 平田哲也  
通所リハビリテーション  
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅  
長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175

主の平安

株式会社 五島式典社(齋場) 五島中央会館 奈留会館

代表取締役 ヨゼフ 浦 昭

24時間営業  
五島市上津町 1385 番地 1 TEL (0959) 74-5551  
FAX (0959) 74-5552  
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101  
FAX (0959) 64-3102

タンスの中身は入れたまま 責任ある安全運送!! (見積り無料・荷造り発送も致します)

## 水浦運送

シモン 水浦 幹 雄  
長崎市上野町12-3  
TEL(095)847-7151  
携帯 090-7923-9005

24時間営業・年中無休  
受付時間 7:00~22:00

貨物保険有り  
・一般引越 ・小荷物  
・荒ゴミ捨て ・遠距離  
・学生引越

主の平安  
カトリック式葬祭・飾付一式

## (有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇 二  
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011  
24時間営業 FAX(095)843-9896

# 教皇、広島と長崎に思い 原爆忌に言及

バチカン・ニュース

8月11日、バチカン・ニュースから「教皇、広島と長崎の原爆忌に言及、平和の強い祈り新たな」との記事が配信された。内容は次の通り。

「教皇フランシスコは、8月11日(日)バチカンで行われた正午の祈りの集いで、広島と長崎の原爆忌に言及された。」



「ここ数日、わたしたちは広島と長崎への原爆投下を思い起こした」と述べた教皇は、原爆とすべの戦争の犠牲者を主に委ね続けながら、わたしたちの平和への強い祈りを新たにしよう、と呼びかけられた。

このニュースを受け、中村倫明大司教は、「教皇様が言及してくださったことは、私たちが声を上げていくことへのまさに力強い後押しになっています。どうぞ、様々な手段で私たちの平和への動きを広めていきましよう」と語った。

カトリックからも、司教、司祭、修道者、信徒らに参加した。NPO法人「平和の架け橋プロジェクト」に参加中のイスラエル・パレスチナ・日本の若者の姿もあった。

園と、広島市の平和記念碑を訪れ、犠牲者を追悼し、平和への祈りを捧げると共に、「原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自身が倫理に反しています」(2019年11月24日、広島平和記念公園)という明確なメッセージを述べている。そして、様々な機会を通して、「核兵器のない世界」を目指すようアピールしている。

## 原爆殉難者慰霊祭

8月8日(木)19時から、長崎県宗教者懇話会主催の第52回原爆殉難者慰霊祭が爆心地公園で行われた。集まった約700人が、神道、仏教、キリスト教、諸宗教など宗教・宗派の違いを超えて犠牲者を追悼するとともに世界平和を願って祈りをささげた。

# 「アライ・カプア」活動開始から1年

## お告げのマリア修道会の取り組み

②



アライ・カプア 教育財団のロゴ



ライブラリーの活動と鯉のぼり



ライブラリーでは、月曜日から金曜日まで担当スタッフが十数人の子どものために英語や簡単なワークを教え、その後子どもたちは自由に選んだおもちゃで楽しそうに遊んでいます。私たちも日本の歌や折り紙、製作などを教えることもあり、先日は鯉のぼりを作りました。日本のラジオ体操も人気です。

さて、私たちお告げのマリア修道会は、フィリピン・レベリサ地区において、主に子どもたちへのライブラリー(遊びの部屋)とフリーディング(給食サービス)を手伝っています。

フリーディングでは、土曜日に3人のスタッフが事務所の庭で朝早くからその日の食事を作ります。子どもたちは地区のリーダーと一緒にやってきて2ペソ(約6円)ずつ支払い、食事を楽しみます(下段の写真)。



その他に、大人の聖書の分かち合いや子どもへの要理教育に参加しています。

レベリサ地区の方々には厳しい生活を送っています。皆やさしく、子どもたちが笑顔はとて輝いています。彼らの明るさに私たちが元気をいただいています。

お告げのマリア修道会 林さゆり

# みなで聖歌を歌う集い

教区典礼委員会主催 毎月1回実施

今年6月から毎月1回、教区典礼委員会が主催する「みなで聖歌を歌う集い」が城山教会で開かれていた。この集いは「講習会ではありません。どなたでもお気軽にご参加ください。慣れ親しんだ聖歌を思う存分歌いましょう」というもので、毎回長崎3地区の各教会にポスターを配布し呼びかけている。これまで教区典礼行事などで聖歌奉仕を中心的に担ってきた長崎カトリック合唱団が今年5月に解散し(本紙8月号既報)、これからはより多くの信徒に聖歌に親しむを持ってもらうと企画された。



第1回(6月23日)には約120人が参加。第2回は7月21日(日)14時から始まり、各地から集まった約80人がのびのびとした雰囲気の中、声を響かせた。参加者が歌いやすいよう声をかけ伴奏をしながら一緒に歌うのは、教区典礼委員会の平本義和師(長与教会主任)。この日は8月を前に、平和をテーマにした聖歌を含む16曲を約1時間かけて皆で歌った。

参加した女性信徒は、「1回目に参加できず、今日はぜひ来たいと思っていました。こんなにたくさんの人と一緒に久しぶりに大きな声で歌って気持ち良かったです。知らない曲もありましたが、子どもたちが(平和祈願祭で)よく歌うという歌詞や旋律に涙が出そうになりました。また参加したい」と話していた。

第3回(8月18日)に続き、第4回は9月15日(日)14時から城山教会聖堂で行われる。今後も月1回実施の予定。

教区生涯養成委員会主催  
**カトリック公開講座**

日時 11月2日(土)10時~12時  
会場 カトリックセンターホール、他  
講師 デルカ・レンゾ師(イエズス会)  
内容 諸宗教対話 ~異宗教間的一致を目指して~  
申込切は10月10日。詳細は各小教区でご確認ください。

# 平和を祈る音楽朗読会

命の大切さ考える時間を共有

8月3日(土)14時から城山教会で、平和を祈る音楽朗読会「マリアの丘から愛をこめて」が行われ、集まった約120人が、戦争や被爆の体験をテーマにした朗読と、平和への祈りを込めた音楽を通して、命の大切さを考える時間を共有した。



朗読グループ「水の会」が主催するこの音楽朗読会は2008年に始まり、毎回城山教会を会場に開催されている。企画・構成指導は「水の会」主宰元TBSアナウンサーの今井登茂子氏。

進行役を務めたながさき「水の会」代表の東島真奈美氏(城山教会信徒)は開演に先立ち、「この音楽朗読会は今回で17回目になります。コロナ禍

で自粛を余儀なくされた時も、私たちメンバーはリモートで全国をつないで、8月、平和を祈って朗読会を続けてまいりました。昨年からこのような形(公開)で開催できることとなり大変うれしく思っております」と話し、朗読会を支える方々、会場を訪れた方々に向けて深い感謝を表した。

音楽朗読会は今井氏をはじめとする約30人の出演者(混声合唱団コールアクア、東京と長崎の「水の会」、カウンターテナー村松稔之、ピアノ渡辺研一郎、木田あゆみ)によって約1時間半開かれ、参加者から「心に響いた」「聴いていて涙が出た」といった感想が聞かれた。

# 「ミッシオ」への理解深める

ローマでの総会、毎年10月の宣教月間

国外では「ミッシオ」とも呼ばれている教皇庁宣教事業。これは、ローマ司教(教皇)の管轄と調整の下で全世界の宣教の促進に向けられたカトリック教会の世界的ネットワークであり、この中には4つの事業(教皇庁信仰弘布事業、教皇庁児童宣教事業、教皇庁使徒聖ペトロ事業、教皇庁宣教者連合)が含まれている。



▲教皇庁宣教事業説明に関する門問師(大司教館)

この宣教事業の日本のナショナル・ディレクターを務めている門問直輝師(東京教区)が7月29日(月)長崎教区を訪れた。主な目的は、今年5月末にローマで開かれた年次総会に関する報告と、毎年10月の「世界宣教月間」における日本の取り組みなどを紹介すること、中村倫明大司教と教区本部関係者らと

# 新刊良書

★預言者の言つてかかん  
で聴いてそっと生きたら



著 古果馨

「人生は言葉にならないことがほとんど、白いのだと、教えていただきました。だから、

もう少し受けた言つての続きを生きてみようと思えます」(おわりにに希望の話を)から

月刊「カトリック生活」(現在、休刊中)の好評連載「預言者の言つて」が読者の要望に応じて1冊の本になった。人に寄り添い、共に笑い、歩み続ける著者(長崎教区司祭)が出会った、キリストの続きを生きたる現代の預言者たちの「言つて」。

★まよなかのおきやくさま

文|| マックス・ルケー  
ド、画|| イブ・タルレ、  
訳|| ホーバード・豊子

女子パウロ会、税別1400円。



親子。きつねもきて、そのあと、2人の人も泊まりました。赤ちゃんの泣き声で、みんなとびおきて、まわりに集まってきました。ひつじかいも、神さまのみこイエスさまをおがみにきました」

女子パウロ会、税別1400円。

女子パウロ会、税別1100円。

### 召命親子キャンプ

小学生と保護者、伊王島に集まる



8月5日(月)から6日(火)にかけて、教区召命委員会が主催する「召命親子キャンプ」が伊王島で行われた。小学生をはじめ、親、スタッフら総勢36人が馬込教会に集まった。

1日目、参加者は司祭やシスターの召命の話にまずは耳を傾け、その後は磯遊びへ。釣り体験は初めてという子もいた。夕食は皆でバーベキューを堪能し、花火をして一日を締めくくった。2日目はミサにあずかり、朝食後に海水浴に出発。伊王島の海を楽しんだ。

参加者からは、楽しかったとの声をはじめ、さまざまな感想が寄せられた。

「他の教会の人と仲良くできるか心配だったが、ど、すっかり仲良くなれた」(6年・男子)、「神学校に入るかまだ分からないが、しっかりと考えて答えを出したい」(6年・男子)、「これからも神父様のお手伝いをがんばりたい」(4年・男子)、「キャンプに参加した方が良かった」と言っており、保護者も、「子どもの将来はまだ分からないが、召命の道が開けるよう祈りたい」(保護者)。

主催者は「召命の実りへとつながることを願っている」と話していた。

コンベンツアル聖フランシスコ修道会

### フランキッズサマーキャンプ

小中学生の子どもたち 平和を考え、祈る



最後の日の朝早く、名古屋に帰る一番下の子を見送るために、この何日間か一緒に過ごしたお兄さんたちが集まった。別際に、ぎゅっとハグをして、また会おうねと声をかける。この短い期間に、ここまで仲良くなったのかと思うと、目頭が熱くなってくる。

フランキッズサマーキャンプが、聖コルベ志願院(長崎市)を中心に8月2日(金)から5日(月)まで行われた。北海道から大阪、宮崎まで9人の小学生から中学3年生の子どもたちが集まった。それに小中学生3人がリーダーとして加わり、5人のスタッフが一気に過ごした。

キャンプの中で何よりも大事にしたことは、一緒に教会の祈りを唱え、ミサにあずかることだった。また、殉教と原爆、そして聖コルベと聖フランシスコを通して平和を考える、今の日本の教会をすることも大きな目的だった。同じ信仰を持つ子どもたちが経験したこの何日間の日々が、きっと日本の教会の土台をなしていくと、強く信じている。

聖コルベ志願院 院長 李信衡

### 第1回臨時司教総会

2024年度

7月16日(火)から19日(金)まで、東京・日本カトリック会館で2024年度の第1回臨時司教総会が開かれた。

#### 主な報告事項

▼例年、日本カトリック平和旬間(8月6日〜15日)に向けて司教協議会会長が発表している「平和旬間」談話を、今総会での報告後、公表する。

#### 駐日教皇庁大使フランシスコ・エスカランテ・モリーナ大司教から、教皇庁福音宣教省に提出していた日本の司教養成綱要が修正なく認可されたこと、6月18日付書簡で通知があった。

#### 司教協議会「司祭生涯養成部門」主催の司祭研修プログラムB(25年1月14日〜28日)にフィリピンで開催の研修内容と現時点での参加人数が報告された。対象司祭の申し込みが未定の教区に追加の再要請を行った。

#### 教皇庁が「世界子どもの日」の開催を発表した

から、日本の教会でも5月に祈願日として「世界子どもの日」を設定する準備を行っていた。今年5月にローマで開かれた第1回「世界子どもの日」の最終日のミサで、次回は2026年9月に開催すると発表された。毎年5月に祝われるとは限らないことから、現時点で日本の教会の祈願日に設定することは保留とし、毎年、同日の教皇メッセージ

#### 日本の殉教者の表記について、「日本26聖人殉教者」の例外を除き、原則「○○○(代表者名)と○○○(人数)殉教者」の表記を

#### 長崎地区子どもスポーツ大会 練習の成果を元気に披露

7月31日(水)シーハットおむらで長崎地区子どもスポーツ大会が開催された。種目はドッジボール。長崎3地区から20チーム、265人の小学生が参加して、これまでの練習の成果を披露した。

開会式はみことばの祭儀で始まった。司務を務めた西田祐尚師(浦上教会助任)は、互ちと司祭団は特別試合を行い、交わりを深めた。

優勝は浦上C、準優勝は時津、3位は浦上Bに決まり、中村倫明大司教の一言とともに表彰式が行われた。12月の「聖歌の集い」への参加も呼びかけられ、また来年度の大会を期待しながら解散した。

#### フォーコラレ主催 マリアポリ 2024 in 長崎

2024年10月11日(金)夕方、14日(月)午前中日吉自然の家(長崎市飯香浦町) ※詳細は各小教区に配布されている案内チラシもしくは検索「フォーコラレマリアポリ」で確認ください。

#### 教会行政法制委員会(委員長 梅村昌弘)から提出された「カトリック新教会法典」の改正された該当条文の邦訳案を正式な日本語訳として、『新教会法典』に挟み込めるよう書式を整え、PDFデータをダウンロードできるようにし、カトリック中央協議会のウェブサイトに掲載することを承認した。

#### その他、日本カトリック司教協議会の次期(25年度定例司教総会開始時〜28年度定例司教総会開始時まで)会長に菊地功大司教同副会長に梅村司教を選出▼カトリック中央協議会・次期(前述と同期間)事務局担当司教に大塚喜直司教を選出▼日本カトリック司教協議会・次期(同)常任司教委員会委員を選出(中村倫明大司教も委員に選出)▼25年度教区分担金をコロナ禍以前と同じ対応(各教区の分担比率に合わせた算出方法での納入額)とする、などを承認した。

### セシリア 紙崎キクエさん

(紙崎新一師の母)



7月6日、老衰のため逝去。97歳。

五島市岐宿町生まれ。妹に2人の純心聖母会のシスターを持つ。戦後まもなく結婚し、原爆でほとんどの家族を失った夫の弟、忠男を教区司祭として送り、3男4女の中でその頃生まれた新一を

あらためて教区司祭として送った。司祭や修道者のためによく祈り、家よりも教会にいる方が多いと言われるほど、朝のミサや婦人会(当時)、聖歌隊、レジオなどに参加し、祈りと奉仕に明け暮れた生涯だった。

入退院を繰り返すようになってからは、笑顔で受け答えをするかわいなおばあちゃんとして看護師や介護士に親しまれ、子どもたちの世話をしながらの最期だった。

葬儀ミサは、7月8日中町教会で行われた。

### 狩浦美砂子修道女

(純心聖母会)



7月16日逝去。83歳。

1940年五島市生まれ。64年初誓願、73年終生誓願。広島、長崎、埼玉、鹿児島、東京など8カ所で幼稚園教諭として35年間勤めた。温かみユーモアがあり、関わる方々に慕われた。2013年マダ

レナ修道院に派遣。訪れる方々に温かいもてなしと言葉かけで接し、また、聖堂の花係を忠実に果たして自然の木々や季節の花を飾り姉妹と共に神を賛美した。今年1月末に体調を崩し、末期がんと診断で手術を受け、5月に聖フランシスコ病院ホスピスに移った。

自分の死期を感じ、梅雨の時期でも晴れた日に天国に行きたいとの希望を漏らし、その願い通り7月16日の晴れ間、御父のみもとに召された。

### 岩崎ハツ工修道女

(純心聖母会)



7月29日逝去。87歳。

1937年佐世保市生まれ。59年初誓願、68年終生誓願。25年間は川内純心女子高等学校の商業コースで主にタイプライターの授業を担当。83年から宗教倫理も担当し、生徒たちに神の存在

を語り福音宣教に力を入れた。86年病弱のため療養、93年に復職し任務を全うした。95年浦上修道院に派遣され、院長として院内の奉仕に専念。口数は少なかったが、温かくユーモアがあり、姉妹たちとの会話によく笑いが生まれていた。2015年ロザリオの聖母修道院で療養、23年7月末から体調不良のため入院していた。

容体急変から3日後の7月29日、老衰のため御父のみもとに召された。

なが さき せき ちよう

## 長崎石彫

ヨゼフ 岩永 貴弘

☎(095)862-2469

長崎市花園町 23-17 立岩公園前

2024年4月から相続登記の義務化スタート  
これまでの相続も対象  
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など  
まずは、お電話を!!

### 司法書士 山下 緑 事務所

行政書士

ミカエル 山下 緑

〒854-0014 諫早市東小路町10-21 電話 0957-22-6177

CALIS カリス通信 9月号

### カトリック現金盗難補償制度のご紹介

「カトリック現金盗難補償制度」は、カトリック教会の皆様を、現金・小切手類の盗難リスク等からお守りします。「教会にカギが掛かっている時間に空き巣に入られた」「銀行に教会のお金を預けるために自転車走行中、現金が入ったカバンをひたつられた」など保管中・輸送中の事故に対して保険金をお支払いします。

＜カトリック現金盗難補償制度の特長＞

- お申込み手続きが簡単
- 輸送の都度、保険を手配する必要がありません。輸送・保管額が変動しても、支払限度額まで1年間補償します。
- 支払限度額は保険金をお支払した後も削減されません。
- 財産上の直接損害に加えて費用の損害についても保険金をお支払します。

※ご案内は「カトリック現金盗難補償制度」の概要をご紹介します。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をお読みください。

カトリック共済システム 株式会社 カリス 連絡先 ☎0120-77-0033

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館

カトリック共済システム 検索 24TC-002119 (2024年7月作成)

引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

＜保険の対象について＞  
本制度で対象となる現金・小切手類は次のとおりです。(ただし、家計用の現金・小切手類は除きます。)

現金(他人から預かった現金、および外国通貨を含みます)、小切手(作成前の小切手を除きます)、郵便切手、収入印紙、商品券、図書カード(図書券を含みます)、乗車券、入場券、クレジットカード売上伝票。金券およびクーポン券。 \*上記に列挙した以外のもの(手形、株券等の有価証券やプリペイドカード等)は含まれません。

「カトリック現金盗難補償制度」では、国内における「輸送中」および教会に「保管中」の現金・小切手類に盗難・滅失、その他偶発的な事故が発生したことによって生じた損害を補償いたします。置忘れや紛失、「保管中」に生じた紛失や原因不明の数量不足等は補償の対象ではありません。現金・小切手類の価額を帳簿または書類に正確に記録いただくとともに、事故が発生した場合は、警察署・金融機関等へ届け出ください。詳しくはカリスにお問い合わせください。

私たちが、大澤阿紀子 大西 晃 毛利玲子 お守りします。 服部秀昭 川口 薫 神父(顧問)

リスク補償に関してお気軽にお問い合わせください